

## 2012年独立行政法人水産総合研究センターの主な出来事

今年一年を振り返り、センターの活動やこれまでプレスリリースなどでお知らせした  
ものから、主なニュースや社会的に反響の大きかった出来事についてとりまとめまし  
た。

### ●東日本大震災からの復興、放射能問題対応の研究開発を引き続き実施

- ・効率的ながれき集積・回収のための専用網「タオル網」を開発（H24. 6. 22）
- ・放射性物質について、東日本震災復興特別会計での交付金で、海洋動態や魚介類での挙動につ  
いて実態解明とそのメカニズム解明を進めていることに加え、特に高濃度の魚類について、平成 24  
年度科学技術戦略推進費「高濃度に放射性セシウムで汚染された魚類の汚染源・汚染経路の解明  
のための緊急調査研究」を受託実施し（H24. 12. 4）、水産物の安全性に関する信頼性確保に努め  
ている。
- ・各県からの要望に対応しアワビとヒラメの種苗生産に協力。また、被災した宮古庁舎について、  
東北地方の沿岸漁業復興を支える新たな研究拠点とすべく整備を開始した。

### ●シラスウナギの不漁に端を発するウナギの課題に対応

- ・水産総合研究センターウナギ統合プロジェクトチームの設置（H24. 7. 2）  
ウナギの資源生態の解明を進めるとともに、シラスウナギの安定大量生産に向けたプロジェクト  
研究を始動（H24. 3. 16）

### ●有明海八代海を中心とした環境研究の進展

- ・有明海における貧酸素水塊の一斉観測を実施（H24. 9. 12）
- ・養殖業の大敵、有害赤潮から魚を守れ！！～自動観測ブイによる八代海の赤潮対策～（H24. 6. 18）

### ●種苗生産・飼育技術が進展

- ・低温ワムシ育成によるスケトウダラの仔稚魚飼育技術を開発（H24. 10. 19）
- ・環境負荷ゼロを実現し、コスト削減にも繋がる閉鎖循環式ワムシ連続培養システムを開発  
（H24. 5. 28）

### ●養殖関連の新しい技術

- ・経済性も兼ね備えたタイラギ垂下養殖技術の開発に成功（H24. 7. 3）
- ・シカメとマガキを迅速簡便に生きたまま判別する手法を開発（H24. 6. 4）
- ・高級魚マハタの養殖生産に朗報～長年の懸案であったウイルス病ワクチンが製造販売へ～  
（H24. 2. 10）

## ●大型クラゲ対策研究の進展

・世界初！中国水域で大型クラゲの幼体を発見～出現予測の高度化に向けて前進～（H24. 2.24）

●マアナゴの産卵場所を発見！一沖ノ鳥島南方の九州-パラオ海嶺上に特定～（H24. 2.23）

●海苔エキスを配合した化粧品を開発～海苔の消費拡大のための新たな用途を拓く～（H24. 8. 6）

●人工的に生産した造礁サンゴ幼生を高い生残率で着生・生育させるサンゴ増殖技術を開発  
（H24.11. 1）

●太平洋および我が国周辺の新しい海況予測システム（FRA-ROMS）の運用を開始（H24. 5. 8）

## ○水産分野の発表論文数が世界一

文部科学省科学技術政策研究所の「研究論文に着目した日本の大学ベンチマーキング2011」により、水研センターが水産分野で論文数が世界一、被引用数が日本一であるとされた（2007～2011年の年平均値）。1997～2001年と2002～2006年でも論文数は世界一となっており、水研センターが世界でもトップレベルの研究機関であることが示された。

## ○PICES-2012が開催される

「北太平洋海洋科学機関」(North Pacific Marine Science Organization)の2012年年次会合(PICES-2012)が10月11日～21日に広島市で開催された。今回会合の主催は日本政府で、水研センターはPICES事務局と協調して開催に協力した。22カ国から450人の参加、口頭263件、ポスター150件の発表があり、活発な討議が行われた。一般市民を対象とした市民講座も開催。

## ○北里大学と包括連携に関する協定を締結

両機関が包括的な連携のもと相互に協力し、水産及び海洋分野の科学技術に係わる研究開発、教育、人材育成及び産学連携を幅広く推進することを目的として、北里大学と包括連携に関する協定を平成24年12月7日に締結した。

## ○職員が日本農学賞など多くの賞を受賞

平成24年度日本農学賞及び第49回読売農学賞（増養殖研・田中秀樹）、日本水産学会水産学技術賞（西海水研・虫明敬一）、水産海洋学会第17回宇田賞（東北水研・伊藤進一）、第11回日本農学進歩賞（中央水研・牧野光琢）、第11回杉田玄白賞奨励賞（中央水研・村田昌一）、米国藻類学会ルイジ・プロパゾーリ賞（東北水研・桑田晃）をはじめ、各学会論文賞や優秀ポスター賞など多くの賞を職員が受賞した。

○北光丸が墜落した米軍機パイロットを救助（H24.7.22）

7月22日正午前、サケ・マス資源生態調査のためベーリング海に向け北東航行中の「北光丸」に、近隣海域に墜落したアメリカ軍所属F16戦闘機のパイロットの救助要請が入った。急遽現場海域へ向かい、濃霧という悪条件の中、海上保安庁等と連携し、2時間46分後により無事パイロットを救助した。

○中央水産研究所高知庁舎を閉庁（H24.3.31）

中央水産研究所高知庁舎を3月31日に閉庁した。水産庁南海区水産研究所、南西海区水産研究所時代から現在に至るまで、六十余年にわたり黒潮域や土佐湾の水産資源及び海洋環境に関する調査研究を実施してきた。今後、関連調査研究は、千葉県から鹿児島県にかけての太平洋黒潮域をカバーする中央ブロックを担当する中央水産研究所と増養殖研究所において引き続き取り組む。